

番号	評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学校	運営委員	学校運営協議会 委員のコメント	
			R4年度 R5年度	R4年度 R5年度				
保護者・地域との連携	1	学校は、保護者や地域の願いに応える教育活動を積極的に行っている。	3.21 3.47	3.22 3.52	保護者 R4年度 3.22	R4 3.63 R5 3.63	○先生方が地域の活動や行事に参加してくださり、感謝の気持ちしかありません。家庭・地域と一体となった学校づくりをされていることを感じています。	
	2	学校は、学校行事や参観日等で、保護者や地域住民と意見の交流ができる機会を適切に設けている。	3.14 3.51	3.39 3.52	R5年度 3.45	R4 3.25 R5 3.5	○学校運営の時間調整が難しい中、家庭や地域のために奮闘されている先生方には感謝しかありません。	
	3	学校は、ホームページの更新、地域での作品展やマスコミ等を利用した広報活動に積極的に取り組んでいる。	3.21 3.24	3.44 3.08	教職員 R4年度 3.37	R4 3.3 R5 3.17	○行事の精選や働き方改革の視点からも学校と地域との連携や教職員の負担軽減について考える必要があるのでしょうか。	
	4	学校は、各種の便りや電話連絡、学級懇談会・家庭訪問等を通して、子どもの様子を伝えている。	3.30 3.58	3.44 3.68	R5年度 3.45	R4 3.29 R5 3.5	○OPTA活動や懇親会などの参加者が、特定の世帯に偏ってきている。	
小中一貫教育	学力向上	5	学校は、幼小中一貫教育校のよさを生かした指導体制づくりを行っている。	3.20 3.51	3.00 3.40	保護者 3.16 3.47	R4 3.57 R5 3.71	○長期休業中の課題の内容について検討してもらいたい。時間があるときにしかできない経験や体験も行わせたい。
		6	学校は、子どもが主役の「分かる！できる！」授業づくりに努めている。	3.11 3.42	3.41 3.48	教職員 3.21 3.44	R4 3.5 R5 3.43	

番号		評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学校	運営委員	学校運営協議会委員のコメント	
小中一貫教育	縦の人間関係を生かした活動や行事の充実	7	学校は、縦の人間関係を生かした活動など、幼小中一貫教育校のよさを生かして、キャリア教育の充実に努めている。	○児童生徒会が中心となり、自主的な朝の活動に取り組んでいる。ファミリー班での花壇の草抜きや水やりなどは、上級生の指示で行えるようになってきた。挨拶を元気よくできる学園生が増えているが、自分から進んで挨拶を行うことが課題である。	3.26	3.35	保護者 3.27	R4 3.75	
		8	学校は、一人一人を大切に、いじめのない集団づくりに努め、子どもが活躍する場を設定している。	○児童生徒会が人権集会を実施して人権に対して意識の高揚を図った。 ○コロナによる制限もなくなり、縦の交流を行いやすくなった。 ○8番についての評価結果は、高止まりの傾向も見られる。	3.56	3.36	3.47	R5 3.57	
その他		9	学校は、思いやりの心やルールを守る態度、協調性など、心を育てる学習活動を適切に行っている。	○1学期の参観日に全学級で道徳・学活の時間に命について考える授業を実施した。 ○健康教育（性教育やヘルスサポート）を計画的に実施した。う歯の治療を呼び掛けて治療率が向上した。 ○弁当の日は年間3回実施しており、弁当の日に向けた事前指導も実施した。夏季休業中は職員研修で調理実習を行った。	3.23	3.35	保護者 3.29	R4 3.5	○「自ら考え判断して自分の意見を表現できる。」ことは非常に重要なことで、都会の子達以上に身に付けておく必要があると考えます。
		10	学校は、情報・安全教育や性教育、食育など、生命や健康について学ぶ学習活動を適切に行っている。	○月1回、全体でハートフル委員会を行い、その後校種別部会で細かな情報交換と対応について協議した。 ○韓国林川中との交流も昨年に引き続き実施した。互いの学校紹介動画を見せ合い、質問に回答したりした。	3.46	3.52	3.51	R5 3.5	
		学校運営協議会委員から出されたその他の意見や要望等	○家庭での読書が不足している。スマホ等の使用時間が長時間になっていることも影響している。 ○親や大人もスマホを操作している時間が長すぎるのではないかと。大人が見本を示すことが大切である。また、ゲームやスマホの決まりやルールを作ったの実践が不足している。						
##		校長所見	○学校評価結果は全体的に向上している。学校経営ビジョンで「地域のよりどころとなる学校づくり」を掲げているため、保護者・地域との連携についての評価結果向上は学校・家庭・地域の励みになる。コロナによる制限がなくなったことが要因として考えられるが、他についても分析して来年度に生かしたい。 ○コロナによる対応は5類に移行したが、インフルエンザ感染症予防・コロナ感染症予防については、必要に応じて対策を行う必要がある。 ○南学園の情報発信について、実施できることを積極的に行っていきたい。						